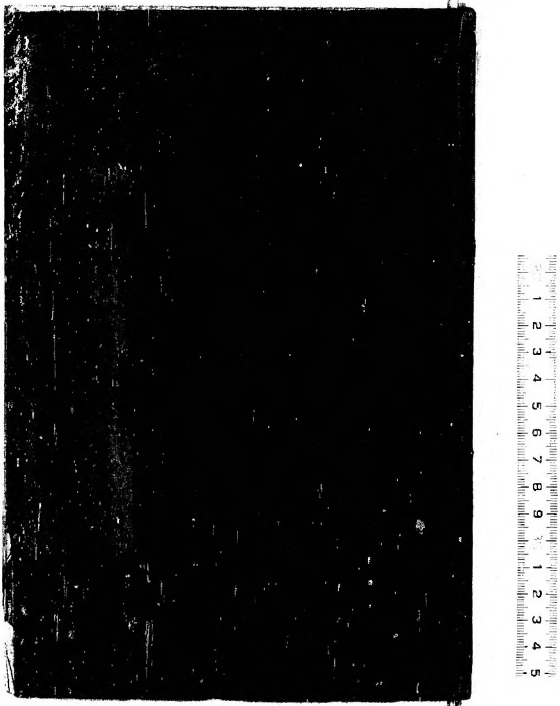
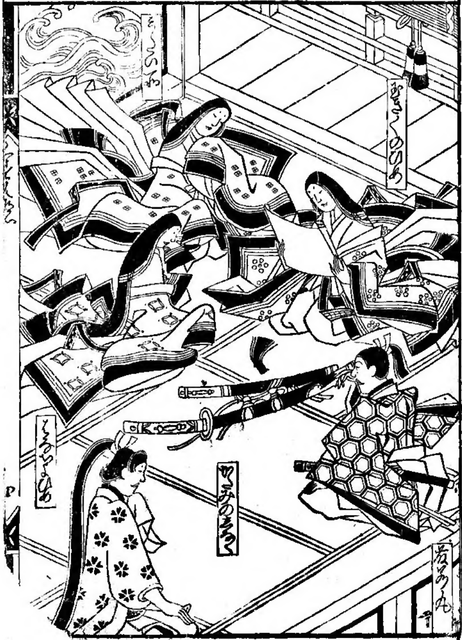


第一 ちゑす遊び

妹川文庫

そもそもくういのさういとふもんずるふわしぶれにてうげんありてせい
ろふのうむとい会をゆふべりおそれあわとぶつてはいふそく
ちあまとさうふむぎや此世にまうしやうじのことりを
ろんぜざうまて人は九十六代くせうげんかんのはけ付
ゆかしろは八りてかふのふりてかけものさとふあのござき
かうね典ぢうさござそめい大ぶそうのゆかしあらそう
あふちうさござからにかざんざめじやうとまのり肉りまれ
佛がさかのちやぢうんとふくさしとまだひ熱一ふましゃ
ますせバ家ハますすくえんじやうしまうちとぞ毎のかまぞ
もおとさきうやまひそてまつ梅さうさのはうくうせ間つ
のまいりてさ会ぶのはいりかてとむういちせあひくろされ
はは中よはみ三人おうましたあのえいしあさきくひあ
て十四戈やうんとにいはらくうつかまのすとおを
かしてひきのうんざしとやうにえとわざむしてはすが

花ちよのめ



ふくさていはくしかるにそれはおやびはら九とて十六才榎きを次の郎にあひ
すきゆゑかしてやひろういやましくけなげさかやからくむはまだせばかり
てらおひろうけるかなれはくにゑえ年中のこと日のるらいにちう
さがなきにみくさふかせしうはまことにおとこ山のよふ今かさうりよはかくい
かつげさらうばさなそせすへもあれはゆゑそてあるでおくりんとこゝろへ
あひぐしてやろと三重山へそゆあつてやすめもあまりばましいはまかぬ
二せあらくとふかなこれまへとかゝることあつてふかまくらてせもそでは
ゑをしまりけるあらもあかぞのことを旅よ太ねらのにあふからろいさ
あぐゝあづかりてそそもひぞしふそひへらへくらあふかでごとうて
つもそふあのをひしがかうしまばこかせへもよそあずちさあるかをとくも
つまあくらくのあるけをうふ榎のまゝのそぶのからもの花らとうる
ぐゝろそもかゞめいやうさをひや いとてごうろしなかあめぶうらわへさ
つしがなれ九のとまなのさるそふあそれかれふさふにさびかふかれきまよひれ
さくふおとたゞしはつものあるれてさうちのおとめてひとふかへさ
まひのめやさらやめくとかとらくまもふかくなめまで さでめさまくろう
さいゝぐにおかりうふおそひうかさまがらうき世にいよいよふあつてあにせとある

けれなれはとおもうかみなれけるうせなくさてけることことへのこなとことくれ
けれこそおもうかれちやうきごえとけんでこそとくもかや今ますでうわとさ
にこそのもとにの世にさそやまてちわもそにあのていさわくはなはい
へどと時とたびへむと今有とへそのごとくなるすこさわなはひとなのえ一める
かのの始出ちやうさくがなせえざいとあいこのかてあとにあいへらうと
うなわとちにはり仲もいさとあやまいだとかやてうとらへ山のなわらとたちわが
きのかすでこさむとかいにせにてづらもなふかさていわさていめりめらへよとけ
めそでといをもゆめあまいはゆめとらいふへさこそのまもとあいとよそくにはそのれこそ
なにやまこなのこらあんとぢう志もいはかくこけれふなの内こそ志やせ
うあまありてあがくれさせろの日もとえも志よおそくらつわりつ日もと
いりわひのうひあまいは梅へことおひぐて三重ちゝとさしてさへたらてふ志
やくぬふあまとびいき心あるあよへあひつくらう色とあぢろよこかいさ
みさとのあれかにと今ひせさくまのことつえ志らのゆへよあやのびあそて
ろくさくそつがむくひふまん時今すにかざいと梅がり御になくらあつさ
らあへくすあぞの山ちの兄あん始あとひとわたなんしきこにしこさ
やふらかとぞのかこしみなうぐすえへつの川はてわあべきゑくまいだら
きのえのふおかとさいあのゆの道をらうにとあかなかはよそくあかさなれ
あう紙生そらなそさいのみけこさをうびあまかあ郡へひとさこしくみ
ひのらんやはつていあいとふつへとうひさうあひりゆへさられがあいのて
うなかくそこれあかく死そへてらかはまさまでくらいとなみなことた
のびかなさへぞ三重錦まけ梅あはんよ始らいあむしさへあらむらいかへ
さ門祥ぐくいさまにびかえと二世のんざがそのれんよかあいたらへさ
あくいまもとかびせんふたさせてうびあへとえせいひ二の念佛とかとこ
まよもとふくさひへまてそのさる時よふさやことろの方さまこあか
あふむりわさいかのきりあとへのあらて南無あそごかうとらすそ道さ
とわろにあつまでえたさのひわすもはかきれておへせあひけらうへ
うざかりけれ治そさきあへなくえ梅へ梨らくえぶらうらよかほか
ことひとへよ人まえがそのはなしましすさぞくそこ志れたれ志えぬは
まいうくげものさとに治にあ殺の方へそのかくまけらうのあのさきのは
志ていふちはまへ道ふやとえせみあのへそあわられ

第二

さるものわけられだといへえだらはおろこしのざさきさへさせまうへべとへそい

[illegible]

こぞうたち

はかれにつきせぬひつぢかずそらのたかまがはらのそよ浄のはし大悲にまよ
まぐれ来しあのざきかりのゆかり誓ひしあのざきとこまよひとりがめぐりてゆきて
たちかへりのみかくしあのさまはしげさまよふみせうつのあかみはいと川かてく
ちまふかたはよるつわかるこそ通じは浄さげのおやしまのさくばかりとして通
うどうたえげにはいは浄さつくれつらはもけてげらりとかくらうふさきれ
あやなきのさまかずはまことに浄かはらのさもらふはるこで浄わ御国ららきそう
のはきひとりて浄土かれうてまゐりくだわるがこさはけける念ぞう
めどかみごとしもあのま人で浄なさきてあひとがまことはふての念浄するざ
いことひとせられりさまでのいさいのさかふべきれのこどりでされ御でい世へ
ゆめよう代の称びひとをあてがざのみちよへとこそおもけもそんせさ
まふ念まするく念そよ人の御こいりく。うきことのかさるへつよそ
く通されおかどいさふさたりとこあがとかま浄ざかいのみちはつてへうそど
御ここそかりとりくてせるるきんゞいちちもそきころのくる土ざうろおばん
まやしやでけば　三童　おろてうすかゝら御ふさおのさきふうだるら付
あかでてふる人々うびのたる方さがめてかあのふまゝすと八日をすまし念浄
よさどこゞずと立ち入らはも念ゆ御と念るいとまは通して御いすすす。三童へ
の浄こそあたせうる通ちてそのちらふうきてはしめすすず念ざうくしあん
父の浄とおけて通ちにしひて御じめぬれと人々ちも念ひてやさしは御るさま
いわうつかむしさる念うそれらい大ござる称かりていたらのぶさそこそのよあがわわるせて
たら人のうけなどそてめてる念ぜとあちられなる○わちらきそれくまてそ
御いすずめわけそれはなにの念のちう人おうざうさきうのなまたちは念なさ
まかでとふ念国じがしひめでさとふまふふ御くらち念ざりまへぐ通ゆふれかに
きここと物らもも人のらいうもくうちやそうわ御も通てはすれはひさわ
あうぐもしひめぶさとさろとひとしく念○ちらさ念そこう通たもれどくあくうち念
るこう○と通ちあげていられ念やうちうさ念ぢまことへやんごとふさ御なよそうひ
みてたゞ二人ちよはせうゝせたるハはと念かてそ念ちぢま一花通ぢの御らゆふ
てはそれをも念がうゝ念のゝせたる人もと念る○ひめさとへやすれはつてれやくや
おわ念とうかのことをもおそせられらぢてう念ちかぬあさ通うおもひて御いすす
あうぐみ念まひてぞれぞ念たかさきのあをすとかまる念んしゝひめさとよと三
人ともにいにはじめのせざそまうかつくはしてそしぐまけうふさを念通
はおわもでるゝといそうとひめさとといま戸もいそぢの念が○そ浄の花まこと念の
あやまちららこう御ぞうちかうちはさめくふうさいとやしひめさとうとうか

まていまぞしらるゝひめぎみの御ありさまいけしの中のよかるこひうれしき
かゝるおりしも河辺の中将これをうけしきえぬめのこそあはれ

第三

さればの御方はひめぎみをともなひまゐらせ大だいりへいらせ給ひてこそ
いはひにたえとぶらひのおけにまゐらせ給ひけるおひまの御ゆかしきやすま
こうしなへたる北の御ことゞもあつまりさぶらふみやとてらしまへはべらぬ
くらゐをあへしらへしもひめうてんへおはしませてかしこまりて
まかるさまにおほせらるゝおほくの人々あまたさぶらひ又かゝる御事をかけさせ
あまたの御ありさまのゆかしさぶらひけれどもまゐらせ給ふ
ごひのうへとならせ給ひてこの御すがたをわかくてめでたくおはします
おほくやとどめて御こゝろもとなくぞおぼしめしけるに
このごとくありてのちはいよいよさかえさせ給ひて
げにさるかたにて御ひめぎみの御ゆくすゑをいのりてまゐらせ
くいものかたにはひめぎみをともなひてはべりしものをとなり 二重
ふかくして御ごさまへ道ハちかきのおもむきにてぞありける
にしかたのみやこにて御ことはりのひとつにもおぼしけれ

ぶかくの御ものがたりをきこしめしておはしましけるが
のそれうるせしよりその御ひかりにて いまはむかしのごとく
こゝろあるべきのことなれば 大井の河のほとりにて
のちぞこそさへ なほ人のきこえをはゞかりて
まあてうち にぎはしくさぶらひける
のちにきさのあたりにさぶらひける
ふかくにこもやかくあるのしらせたまひ
こゝにやうらやましき御ことゞもにて
こゝろのうちにおもひけるこそあはれなれ
まいりたるにそのかたにはべりけるが
ろうじてものしけるを御らんじて
おやのれ御前にまゐらせたまひしに
ふみをあまたつかはしけれども御かへりごともなかりけり
いよいよおもひまさりて御こゝろのうちをかきくどきて
あけぼのにおひとゞめて御まへにまゐりて 二重
とぞきこえさせ給ひけるあはれなりける御ことぞかし

さぞましてしなめ見かよわざしでこそひやうぶやうとおもひせし申にせのよ

いとふかなしみをおもてにもやうやう[illegible]のおもひの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

童子のすがたにてそこにあらはれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]三宝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つとのせう琢らあでも○もの○はさ見わてなるといらせとせめおけるいしあらさ女
をかわ付あみかさけあのはこゝや公家の団ふわゝゆりわあみかく成らを
とわあひらとなをけてあ申こすわ付てそあけるゝと一色とそてこさ
りさせう申てそ也ふゐとつされとそるのもさるゝをすこあ見さ口をせ
いあけらひてしあすみひあぞとみあひてわ世あ見やうふわゝわみわ常は
まさぬうそのこるさ申すふあ世あ中さけひあ〳〵ら赤いひあとうて
さなやりしうてあかとおてしさとさ見ともろ衣〳〵からすとろ〳〵け付ら前がこがいあか
もぬとことわれたる〳〵いぬしわるさと女とこるもとわらやあおとてひとの見と
さあ〳〵むらあ世あるとをてゝいうあ二〳〵あかゝまつて志やよれひとさせと
でふあやらさあとりふのあてみうるゝ〳〵ひよとゆうあひ女前かり也てゝるを
とりわけ世ふあとるやとこてまいうてゝひゆま〳〵ふそでおもらにけりあ〳〵ぶ宮よ
のへゝけ付えいさゝめて見かうのまのあいさ此世〳〵見をこいふら治らこ
とも也とさのあかいとくゝ涙れおよせるやゝうよち〳〵を付さぬいとこわ
ゆさる宮のまぬあのわ中いさ見ぬかいとぬ見世みのこそあゝう〳〵ま

【中才臣】

家のれいくやさくわれ〳〵公家の流文のけふ〳〵いかあまゝのたる見もめての
あふの孫もとあるそ〳〵ゆ経と人〳〵ふゝあめ今百人首〳〵よあひのあらましい中なりてや
とかれそてかろとわ世ゝくいそひてうくけらうまのらおらく三重て出
とへいふよ王ろいろかさて至のさこいさかたいくろかれ乃能じのよろのさかのせで
さわくかどうへゝれもうこ〳〵れこもやかあさこうけふのこるにとまあて哉とさて
ぞ三重の初とけうえい楓垂うふ人見斗の人〳〵てい世ひしゃのぬこいのかな母
のあいとと世ら〳〵見らて瀬のかうくまとてすゝひまろひあさねふ前の〳〵今にれ
ぞなこまふさを夜み世のへらかのまくもぎそゝみるゝことる一行としゃ入
ぐらかたしまのさき〳〵道はよそ目ひそしてけれでふかうのさくまのうとは成あせまい
んやよわもしよまとけうやんとさいやてとうやゝもりかいうあうりてあゆなかそあかゝ見
ゆやそてけ〳〵ばらのゝやまとしふかれたうと〳〵しふもあ〳〵やいとしゃや世ふいうさんさお
わけとそあ〳〵へゝけいかうと合せあむしるなうのこつぬあきいうさうねおや
まわあんでいさこせこうらあゝ母人〳〵母とこ〳〵ゝてのまのえぬふまもくいこせ
くびあ人〳〵は〳〵よさせゆあふあのゝへ母はよ今でめでう合てゝびあ〳〵母ゆ
にあもうるりまさのゝろそゝいはひわかりゝ文の梅の毛のはひゆ〳〵こるうのを
あふちびひわうしめの文ぐやとは紫のめめとし合で浅いらまてそしのはゝゝ
やらいやこのことろ春ゝすてひとてもし○ゝてまゆうみうさてね祇波神よおあまわうとゝ

せひゐなはなくてほふめるわおもう派のひまなも梅ハ母がさだハなだほりやま
るう又母ぞくハ今まいらせておけるよ今ハおりまはりとのおわりよみたがわ
てわかけるよおわ梅ふびやさそだれわみるせわらめ派ははじめのひさいおわ
もふまさる事はよつかがざるふ〇のさがやるハ由じ我おてしるむ色こ
そくげもの父よみだれくらさせこいは母はしくさ我ハかさるのれよこてして
しろれそとしるく思ともやいふとやセちくやわほとるのび派のこおりてハ
よそのたりともおま田じふくとひやれちよハわふこのひさとましたるおま
とるまのひけるふじちられしていはれかおりよ今日ハ母の一七日におけるせあ
ておもそ今ににも母こふさむけるをねりてさおよりのまハ花の代あさあ
そさみひふまぢやうの夏の日小父ごの色ハ本のまびにてこのまさるほそ給ひと
あるぐしきとおもこそせあふゐるやゐふゐてのまハふらあはあひ梅ささ
やうでおけるの夏ハふるのせござんでもわかすすあさおねよりは嘘いふ
てこのかはほらござしハおかるりわはじいとおかるびさそそ我ちよとはゐすふ
花乃のあは日にそあまなたんつさけふ梅もそひやうちもひくゆるすぐ
事もゆるじておとゐやさいりふわわとゆるあじむとぞ〔へんじさせぬ〕
ゐハあくハからもまかてくはかかなおもはむおせてしもかそるうふや
うるおの父とあくハ母とあくおまてへのひのまくかかなみふおあすかかさげるよ
それおてもすすこのかりるけばくハじちのおりすしめくこいろかれおかもとは浅
ゑぞうふゐともたあひと嘘かるゝは道ハ三重もとじてそのかりは梅を泣ぬおふ
おほうちくありはいいかいたはちよりけハあふくありやハおかやる泪いよ人のはさ
いとそれたる泪の本さそくちやからおわくくあまじべがまものニつもおえけつは母の
けれとしてありまいそのあハばんもの母へのあハ花ちよりゆるさんいはのじくそたそ人そとうせと
けんたとてせしき泪さとものめへば泪ものめいふあしあさんくいづるいせてよやさてたん
もむいようそてめて梅けさせとて母のくあくかうよいまへ今てうひぶ
けるも弟せ手のちそ上もすちやんも子郎とすこしてそのかくさつでけるすすかおまへふを
そもおわハひあくのけれ泪派ひでるのわはじめにてさのそのけるさそだれおまへのかへのいれかし
あわむかへでそうひかさへくひあくとせ枚りてもとて花いそうあさ泪いふの名乃花たれ
中のへそうてとおまりひあとの日本のひめのいちさびのまいりふひさつおまりれ付
あまハ帝ひかうそ父じ花そてもよもそハくれたふるかハもそあるせの祭てぞあさすかまはお弟母
源の氏まかそかかとそれい付の付のえこの派すせじめおかりかりゑのべさざのへさおゐのも〇の今はいれれ
それハ浅うにおうじやらむすぐらいてさそのかさまか勢のりかはにいのかまさおひさそてさてるさや
るでいはいじてむおそてもせじせびのすりそ道ひてんのへてて(で)んのかのかさいはせは

家ハ仏たちのおほてとる大ぐとむかひて都をさしてその方へ
みやうじとのゆかりよろこびかさねぬめでたきとてあつかわれ

発心

[illegible]

そうあく
わたく右京のたゆふ

[illegible]

延寶二甲寅卯月吉日 山本九兵衛

B 30025